

# 労災情報たかやま(H30.7月号)

高山労働基準監督署  
(安全衛生課)

平成30年(6月末時点)の労働災害発生状況について

## 主要産業の死傷者数

注1)右欄のカッコ内は死亡者数(内数)  
注2)左欄の死傷者数は休業4日以上のもの

	H30年		H29年		H28年 (参考)		対前年比 増減数		対前年比 死傷者数 増減率
	死傷者数	(死亡者数)	死傷者数	(死亡者数)	死傷者数	(死亡者数)			
全産業	83	(3)	79	(2)	66		4	(1)	5.1%
製造業	22		17		23		5		29.4%
建設業	14	(1)	13		8		1	(1)	7.7%
運送業	9		6		3		3		50.0%
林業	10		8	(1)	5		2	(-1)	25.0%
その他	28	(2)	33	(1)	24		-5	(1)	-15.2%

## 熱中症及び、降雨後の作業再開等に注意を!

全国的にみると、既に梅雨明けし、本格的な夏に突入した地域もあります。飛騨地区においても、日中は30度を超える等、暑熱な環境となっています。WBGT値の把握、水分・塩分の補給、日陰の確保、作業の合間に小休止を入れる他、日ごろの体調管理を確実に行うことで、熱中症対策に万全を期すようにしてください。

6月の豪雨では、土砂崩れ等の被害の発生する地域もありました。降雨後は、地盤が緩んでいるほか、地面も滑りやすくなっています。屋外作業等では、降雨により作業を中止した場合の作業再開については、地盤の状況や、累積降雨量、周辺の河川の状況等に十分に留意し、作業箇所の安全を確認したうえで作業の再開を行うようにしてください。また、作業再開基準が確実に定められているかを再確認してください。

## コメント

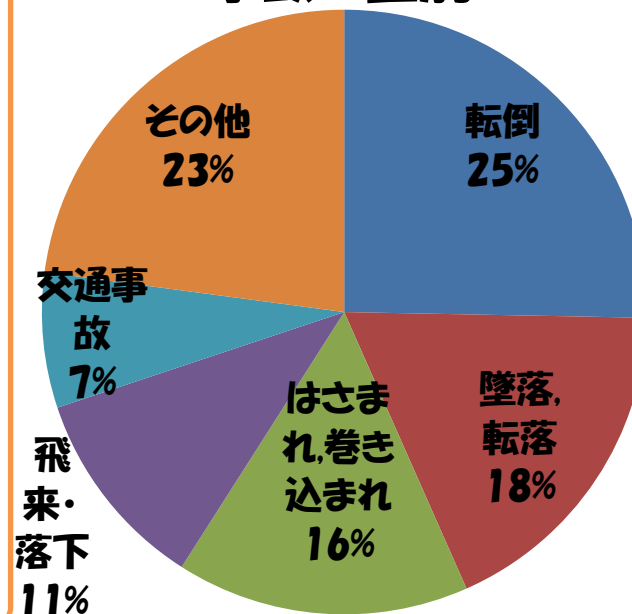
平成30年も半分が終わりました。平成30年上半期の休業4日以上労働災害による死傷者数は83人と、災害が増加した平成29年に比べ更に4人、5.1%の増加となっており、労働災害の高止まり傾向に解消が見られず、死亡災害も、前年より早いペースで発生しており、既に3名の尊い命が職場で失われている等、大変危機的な状況にあります。

業種別では、第三次産業を中心とする「その他」の業種では、若干の減少となっていますが、それ以外の業種はいずれも増加しており、特に「運送業」、「製造業」、「林業」では高い増加率となっています。

事故の型別では1位「転倒」、2位「墜落、転落」、3位「はさまれ、巻き込まれ」の順で発生しており、これら3つの災害で全体の6割近くを占めています。

また、起因物別では1位「仮設物、建築物、構築物等」、2位「物上げ装置、運搬機械」、3位「動力機械」となっています。

事故の型別



起因物別

